

○渋谷美砂子, 天野寛子*

(昭和女大・院, *昭和女大短大)

目的: 1995年に行なった日本の女性農業者とその夫の生活意識調査から、自営家族労働、家事労働、介護労働、地域活動・地域労働におけるUnpaid workについての意識状況を明らかにすることを目的とする。

方法: 調査時期は、1995年3月～8月で、生活改善グループ活動を意欲的に継続してきた女性農業者6グループとその夫を対象として、留置・本人記入方法による意識調査を実施した。

結果:

- ①女性農業者とその夫は、<労働と労働報酬>についての概念が統一的に把握されていない。女性農業者の6割とその夫の7割は、報酬は家のものと考えている。女性農業者で職業人意識は持っていても、Unpaid workであることに疑問を感じていないものが多い。
- ②家事労働は徹底的に女性がするものと考えられている。農家の夫は都市のどのグループの夫よりも家事をしない。どちらかと言えば、都市の妻パートの夫と似ている。女性農業者は都市のどの就業形態の妻よりも、夫に家事を期待していない。
- ③夫妻は介護労働をPaid workとは考えていない。介護は<順繰り>だからUnpaid workで当然であると考えている。同居の子供夫妻に期待している割合が高い。
- ④道路掃除など地域の労働出役の義務に対してはそれほど負担には思っていない。